

二月十六日 福山市神辺町「こもれび」

第二十七回東部管内組合員交流会 次回開催担当地域は「甲奴・神石」

東部活性化連絡協議会(会長 山本芳紀)は、二十七回目となる東部管内全域を対象とした組合員交流会を開催し、組合員・関係団体から三十三名の参加があった。

同交流会は、東部地域の酪農任意団体が持ち回りで担当し、今回は福山地方酪農協議会が担い、司会は淵上増廣氏の進行で行われた。



開会にあたり、山本会長は多数参加の感謝の意を伝え、来賓の鈴木道弘専務(広酪)からは、昨年の山陽乳業(株)の被害から東部地域管内の生乳は三次CSに送乳、乳価交渉経過の他、二〇一九年度乳価構成による負担増等の酪農情勢を交えて挨拶した。

乾杯発声は、山

陽乳業(株)の砂内修治社長が担い、同社の災害復興状況の報告と復興支援への御礼を述べられ、役員・社員一丸となって頑張つて行きたいとの意気込みをもって、酪農家の健康と山陽乳業(株)の発展を期して乾杯が行われた。

遅れて参加した岩竹重城組合長(広酪)からは、県内の大規模牧場の生乳出荷先の変更によって受乳量が一日六トン減で現状百十六トンの減少も影響して、次年度乳価構成では負担増、二〇二〇年度からは中国生乳販連統一の乳成分・乳質格差金テーブルが運用開始、二〇一九年度は乳質格差金を財源とした事業を廃止して全て良質乳奨励金として還元する旨を説明した。

交流会では、美味しい料理を頂きながら笑顔で酒を酌み交わし、和やかな雰囲気の中で楽しい時間を過ごされた。

閉会にあたってはみんなで記念撮影をして、次回の開催地となる甲奴郡酪農組合と神石地域酪農生産振興協議会を代表して、藤井鉄男代表が万歳三唱を行い、山本会長からは「この交流会の参加者も減少しており、交流会の運営の在り方も考える時期が来ている」と述べ、次回の再会を約束して閉会した。

三月十四日 三原市久井町「法泉寺」

社会に貢献した乳牛らに感謝 酪農慰霊祭



三原市酪農振興会(会長 新舎和久)は、酪農慰霊祭を開催し、会員七名の他、指導機関等を含めて十五名が参列された。

新舎会長は、自分たち酪農家の都合で亡くなった尊い多くの命への御礼と感謝の気持ちで述べられ、住職の法話では「家畜は自分の好き嫌いに関係なく、暑さ・寒さにも耐え、飼い主や社会に貢献し、最期は己の意思ではなく死を迎えることに対して、無情を感じる」と話され、生計の糧とされる命を考えさせられ、出席者全員が焼香し、手を合わせた。

その後は、場所を移しての昼食を兼ねた懇親会を開催、鈴木道弘専務(広酪)からは、最近の酪農情勢を交えて挨拶し、東部畜産事務所からは「衛生管理対策の徹底」、三原市からは昨年の災害復旧の取り組み状況、山陽乳業(株)からは災害時支援の御礼と最近の製造回復状況等の伝達があった。